

2015 年度

学校関係者評価委員会第 1 回議事録

日時：2015 年 9 月 18 日(金) 19 時～20 時 45 分

場所：15 教室

出席者：吉野たけし氏 山野 晴雄氏 小泉 昌広氏 永井 純氏
列席者：八尾 勝氏 倉持有希子氏 上松 剛氏 林 恵子氏

I. 聖書日課 マタイによる福音書 18 章 4 節

YMCA・YWCA 共通の聖書日課「日々の糧」より林事務長が聖句とその解説を朗読した。

II. 議事

1. 委員会の進め方

八尾校長より配布された資料を基に今後の学事歴について説明があった。また、職業実践専門課程の現状については次の通りである。職業実践専門課程は全国の専門学校の内 25%が認定された。一方で新しい学校種への動きが着実に進んでいる。中教審により今年と来年で検討され再来年には法制化され、その 2 年後にはそれぞれの学校を認可してゆく予定。私共もそこに手を挙げてゆきたいと考えている。専門職大学（仮称）となった時には、教育の質の保証がとても重要になる。現在スタートした学校関係者評価よりさらに一歩進めた卒業生の満足度や業界での活躍も評価されるようになる。分野ごとに評価項目は異なるため、各分野で現在検討されている。介護分野については、今年 3 校が分野別第三者評価を試しに実施することになり、本校も受けることとなった。

2. 委員の近況報告

吉野委員：第三者評価のファッション分野のモデル校に選ばれた。学生達のためになる評価になるよう常に考えている。10 兆円産業のファッションも厳しい状況。オリンピックに向け、都から任命されたスポーツ委員にも取り組んでいる。

山野委員：4 月から慶応と中央学院大学で教えている。高校の進路指導の中では、専門学校理解がまだ浅いと感じる。職業実践専門課程の第三者評価で柔道整復の分野で関わっている。またすべての分野で共通した評価ができないかを検討する会にも関わっている。YMCA の夏祭りに参加してさらに地域とのつながりが強くなると良いと感じた。

小泉委員：去年利用者の希望をかなえるため、京都旅行に同行したが、今も利用者本人がしたいことを実現することは素晴らしい事と考え仕事をしている。先日 YMCA の介護福祉科の授業に講師として来たが、学生が少なくてショック。介護を目指す人が減っているが、現場としても何かできないかと考えている。できることが

あったら力になりたい。

永井委員：マイナンバー制度、医療事故処理に関する勉強に取り組んでいる。8月にあるテレビ番組で私の勤務している病院が紹介された。7月には立川で開催されたトライアスロンに参加し表彰台に立てた。表彰状を渡して下さったのがなんと吉野委員だったのには驚いた。

3. 委員長・議長選出

委員会の規定に従い議長を互選した結果、吉野委員が議長に決定。
ここからの議事は吉野委員により進められた。

4. 自己点検結果要約版の説明

八尾校長より以下の通り説明が行われた。

内容は大きく変わっていないが様式を文部科学省のガイドラインに変更した。今年の自己点検結果

の要点もしくは特記すべき内容は以下の通りである。

基準1 教育理念・目的・育成人材像

①「互いに愛し合いなさい」という言葉の持つ行動規範的なニュアンスが、学生が何か行動する際に、より良い方向を指し示す効果があると思われる。

②同分野校の立川地区への進出が予定されており、競合校となるであろう。

基準2 学校運営

両学科共に厚労省からの指定科目が多いため、非常勤講師が辞めた時、後任の手配に大変苦労していたが、同じ多摩地区の同分野校で協力しながら講師の紹介をし合う関係ができてきた。

基準3 教育活動

介護福祉科においては更に学力の問題は根が深いものとなっている。とはいえ、共通試験

の模擬試験結果では全国ひとケタ台と上位を獲得している。

OT科のタテ割班活動、介護科のグループ活動では相互による助け合い効果を期待している。

基準4 学修成果

①就職については売り手市場となっているため、ともすれば社会常識や就業意識が十分に涵養されないまま卒業していくことが懸念される。

②OT科の国家試験の合格をより高い数値で維持できるよう努めたい。

基準5 学生支援

①入学前から疾患のレベルにあるケースが入学後にカミングアウトされるケースもあり学校では手に負えない場合も出てきている。

②東京YMCA医療福祉奨学金を給付型に出来る見通しが立ってきた。

基準6 教育環境

校友会からの寄付で校舎内の壁の塗り替えをした。学生会からの寄付で校内のネット環境を整える予定。

基準7 学生の募集と受入れ

OTの希望者が増えているが学校数も増加しているため1校当たりの応募者が減少している。

本校は高校からの入学者が半数を占めている。一方、介護福祉科は定員充足率が東京都の47%よりは上回っている(55%)ものの厳しい経営状況であることは違いない。

基準8 財務

法人内にある江東YMCA幼稚園の老朽化が進み、近いうちに建て替えの時期が来る。

基準9 法令等の遵守

近い将来に考えられている「分野別第三者評価」についても、その検討から試行になる段階に関わりを持ち、テスト受審をすることになった。

基準10 社会貢献・地域貢献

国立市選挙管理委員会への協力、社会福祉協議会主催のプログラムへの学生ボランティア派遣、介護現場の職員のレベルアップを図るための研修に教員を派遣している。

5. 質疑応答・ディスカッション

山野委員 介護福祉科の学生減少は社会的な流れが大きいと思うが、多摩地区を中心に、高校や高校生への働きかけが大切である。個別の高校へ出前授業などのアピールをするのも良い。何か対策はあるのか？

八尾校長 入学者の出身高校に偏りがある。先生の異動も影響する。小学校、中学校での職業体験がきっかけとなって介護に興味を持つ学生が多いようなので、その辺りを活かして都立高校にアプローチしてゆきたいが模索中。地方では専門学校は地域産業に貢献しているが、都会はむずかしい。久留米西高校は2004年から当校で上級学校訪問を行っており、ここ数年は当校への入学者が増えてきていることを見ても、高校とのつながりが学生募集にとっても重要であることがわかる。

OT科では入試でOT推薦を行っているが、これも当初はゼロだったがだんだん増えてきている。介護福祉科でも同様に卒業生推薦枠を作ろうと考えている。いろいろなネットワークを使って開拓してゆくことが大切である。

山野委員 永井委員 介護福祉科の充足率が50%を切っている中で小平にあるS大学が100%を達成できている理由は何なのでしょう？

八尾校長 進路指導方針が変わり、付属高校から自学園の大学への進学を更に強く勧めるようになったことや、4年間で他の福祉系の資格も同時に取れることがメリット。地元を大切にしていることも影響していると考えられる。

- 永井委員 ブランディングができると人が来やすくなるのではないだろうか？
私の病院では医師、看護師の採用に苦労しているので、どのようにアピールしていくと良いかを模索している。
- 吉野委員 学生募集は学校の生命線である。ブランディングは大切な事と考える。
私の学校では中期計画でブランディングをやることとなり、新しい時代のニーズに合ったものを提案している。例えば栄養士がファッション分野の学生に授業を行う。これは着飾るだけが大切なのではなく、体の中身からきれいになる必要があるという新しい視点から学生達にアプローチしている。また、学生のキャリア教育が重要であるのに、学生がついてこれられないという悩みは同様に抱えている。いかに学生のレベルと教員との距離を狭めていくかが大切だと考える。
- 山野委員
八尾校長 今年の志願状況は？また資格取得方法の変更への対応は？
志願状況は両学科とも去年並みである。介護福祉士の資格取得方法の変更についてはほとんど聞かれたことがない。あまりそのことに興味がないようだ。ただ、高校の先生の中にはどうせ国家試験を受けなければならないのなら看護等の医療系の学科を勧める先生もいるらしい。
- 吉野委員 進路選択のプロセスには色々なケースがあるので「こうだ」と決めつけてはいけない。
「人の役に立つことをしたい」というきっかけをうまくアピールすると良いのではないか。ファッション業界はいま就職が大変で3次4次面接がある。それでも入学する学生は増えている。それと比較すると介護は就職しやすいのだが、そのことは学生の心に響かないのだろうか。就職率なのではなく、それ以外の部分のアピールが大切なかもしれない。
そこをもっともっとアピールしてゆく必要がある。
ところで卒業生委員のお二人はなぜ他校と比べてYMCAを選んだのか？
- 小泉委員 自宅から近い専門学校はYMCAしかなかったことと、学校見学に来た時の明るい印象で決めた。
- 永井委員 証券会社で働いていたため、通える範囲で夜間部があったのはこの辺りで3校。その中からバイクで通えるYMCAに決めた。ネットですぐに検索できたことと、はじめて電話した時の職員の対応の良さも大きく影響した。
今の学生は最初にホームページから入ってくる。私の病院では採用のためにホームページに力を入れている。資料請求がしやすいこと、その後すぐに電話で接触、来院時の交通費支給、宿泊費も無料にしている。参考までに。
- 山野委員 介護福祉科の学生のレベルが下がっている中で、国家試験受験となっていくが、カリキュラムは変えるのか？
- 八尾校長 カリキュラム自体を変える予定はない。1年生の時から国家試験対策を取り入

れ、点数の取り易いところをまず確実にし、苦手な分野（医療、社会福祉制度など）は後回し。グループで互いに勉強を教え合う方法は効果的なようだ。現場での力と国家試験に合格する力は全く別なものである。現場で根拠に基づいた介護ができる人は全体の1～2割程度と言われている。学生達には、普段の演習、実習、卒業生からの指導を十分に活かし、使える知識となるように繰り返し伝えている。

小泉委員 介護の現場では頭よりどう動けるかが重要である。即、戦力として使いたいの
永井委員 最近の試みとして私の病院では、ケアワーカー（介護職員）を独立させ、ケア科を作った。看護師の下ではなく、同等の立場にし、地位の向上を目指す事が目的である。介護福祉士ならではの仕事や介護福祉士でなくてはできない仕事に誇りを持ってもらいたい。実際、ケア科のケアワーカーが看護の若手を指導しているし、彼らのモチベーションアップにもつながっている。

山野委員 附帯教育の現状を教えてください。
八尾校長 介護福祉士実務者研修を7月から開講したところである。介護福祉士の国家試験受験資格の条件が2016（平成28）年度より変更され、これまでの実務経験3年に加え、この実務者研修450時間を受講していなければならない。当校も本科生の減少を補うためにもこの研修の受講者を増員させ、軌道にのせたいと考えている。現在は実習先の施設を中心に広報を進めている。

吉野委員 国家試験で不合格となった学生へのフォローはどうなっているのか？
上松学科長 OTは内定取消が基本である。助手や普通のアルバイトをしながら次の国家試験を目指すことになる。3年生の国家試験対策の授業や模擬試験には参加するように呼びかけている。しかし既卒者の合格率は3割程度で低い。

倉持学科長 介護福祉科は国家試験が課せられるのは平成29年度からである。
これまで卒業まで至らなかった学生については、介護福祉士の資格は無くても介護はできるので、学生本人に何をしたいのかをよく聞き出し、場合によってはヘルパー（現在は初任者研修）をすすめて介護分野に就職させたり、職業訓練校をすすめることもある。

吉野委員 国家試験対策はどこでも同じになってしまう。資格を前提としない教育の在り方もあって良いのではと思うが、そういう部分で特色を出せないものだろうか？

八尾校長 資格を目指さない学校は1校あるが、希望者が少なく、遡及力が無いのが現実。
倉持学科長 今の学生の多くは中学、高校で黙っていても卒業できてしまうため、発信力が弱い。自分がわからない時はわからないと言えるように指導している。学生の

質が低下してゆく中で、また時代が変化してゆく中で、自分で発信していく力をつけることはとても大切である。

予定の時間を過ぎたため、吉野議長より質疑応答はここまでとし、最後に八尾校長から次回の委員会の日程の確認と示唆に富んだご意見への御礼の挨拶の後、閉会となった。

記録 林恵子